

令和5年5月27日配布

第330回山口西田読書会プロトコル

村上優子記

1. 範囲

西田幾多郎全集第四巻 268 頁 3 行目~269 頁 8 行目まで

2. キーワード又はキーセンテンス

269 頁 5 行目「最初の単なる有はすべてを含む場所でなければならぬ」

3. 考察及び問い

「最初の単なる有」とは西田にとっては最も大切な充実した「有」つまり純粋経験であったと思います。ヘーゲルの「絶対者」もそれに近い物だと私は理解しました。決定的に違っていると西田が主張するのは「それが於てある場所」を考えたかどうか。私に分からないのは、確信の純粋経験から明白の純粋経験に至るために「場所に於てある」ということがどうして必要であったか。「場所に於てある」ということがどのような事態であるのかということです。